

ばっけ



第30号

発行 平成16年 7月

放送大学秋田学習センター

☎018-831-1997

万人は多かれ少なかれ哲学者である

放送大学客員教授 立花 希一



はじめまして！この6月から客員教授になった立花です。専門は哲学・倫理学で、面接授業では、秋に「哲学の諸問題」の講義をします。無芸大食ですが、卓球やスキーは学生の頃からやっています。

哲学や倫理学について、堅苦しく難解で、しかも日常の生活とは無縁のものといったイメージをもつ人も多いかもしれません。しかし、そうではありません。私ですらやっているのですから。

ピタゴラスは、ある王から、「あなたは何者か」と尋ねられたとき、「哲学者（原義：愛知者）」だと答えました。そして彼は、人生をオリンピックの祭典にたとえ、いろいろな参加の仕方がある中で、観客（見る人）こそが哲学者に相当するといひ、「哲学者は真理を追求する者」だと述べたのです。

皆さんは、この夏に開催されるアテネ・オリンピックを、きっと見ることでしょう。見る人はもう哲学者です。もし見ないとしたら、子どもの頃を思い出してください。動物園で動物を見るのが好きだったのではありませんか？子どもたちは、キリンや象を見ると、大はしゃぎで、その目は輝いています。映画『猿の惑星』のように、猿が「ヒト」を動物園で飼育し、観察することは現実にはありません。動物園を作ったり、動物を見に行ったりするのは人間だけです。人間は、生まれつき好奇心が旺盛なのです。

われわれは日常、さまざまなものを観察し、それらを記述したり、説明したりしようとし、またその結果を他人に伝えようとします。この記述や説明、伝達に嘘や偽りがないようにも心掛けるでしょう。ここに、真理が登場します。

「真理」というと、これもまた日常生活ではあまり表現されない言葉です。しかし、われわれは意識するしないにかかわらず、この語を用いています。お店で60円のお菓子を買って100円玉を渡した時、30円しかお釣が来なかったら、どうしますか？そのまま帰りますか？おそらく「間違っている」と注意をするでしょう。「間違い」という言葉には真理が前提されています。

以上のことからでも、われわれが多かれ少なかれ哲学者だということはわかりいただけたかと思えます。

プロフィール

放送大学客員教授
秋田大学教育文化学部教授
筑波大学大学院
哲学・思想研究科博士課程
東京都出身